

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

大清水校区は、自治会、パトロール隊、しょうぶを守る会等の諸団体や福祉施設を中心に、本校の教育活動に非常に協力的な地域である。本校では、そうした地域の方々との連携を図りながら、自然・環境学習、福祉・人権学習、地域の歴史・伝統・産業に関する学習、食に関する学習（食育）を行ってきている。地域学習をさらに推進していくために、総合的な学習の時間や生活科を中心に、身近な人・もの・ことから問題を見つけ、校区を探検したり、地域の方にインタビューしたりしながら問題を解決していく学習を行っていく。そして、「ふるさと大清水」のためにすすんで貢献しようとする気持ちを高められるようにしたいと考え、実践している。その中の福祉・人権学習の実践を報告する。

① 実践名

おじいちゃん おばあちゃんとともに

② ねらい

お年寄りとの交流を通して、思いやりの心を持ち、他者のために自分の力を発揮できる。

③ 実践内容

本校では、毎年6年生が老人福祉施設である「元町グループホーム」の入所者の方々との交流をしている。

本年度も、7月の「七夕交流会」をきっかけに交流が始まった。本校の体育館に入所者と施設の方が来てくださり、願い事を短冊に書き、笹に結び付ける活動と一緒にいった。活動後には、多くの子が「真剣に話を聞いてくれてうれしかった」「もっと交流したい」といった感想を書いており、交流を深めていきたいという気持ちが高まった。そこで、自分たちが「元町グループホーム」に出かけて行くことにした。



短冊に願いを込めた七夕交流会

まず、交流会に向け、「どんな交流会にしたらよいか」について話し合った。「一緒に料理したい」「ヨーヨーや魚釣りはどうか」などの意見が出された。しかし、「食べられないものもあるのではないかな」「長時間立っている遊びは難しいのではないかな」といった意見から、お年寄りのことを知らないと交流会が成功しないのではと考えた。そして、お年寄りの体や好きなことについて、本で調べたりインタビューしたりすることにした。

調べ学習をする中で、お年寄りになると耳が聞こえにくくなること、体の動きがゆっくりになることなどがわかってきた。また、年を取ると「嚥下障害」があるので、食べ物には注意しなければならないことも知った。調べたことをもとに、第1回の交流会の計画を立てた。子どもたちは、一緒に楽しめるように、けがをさせないようにと配慮した遊びを考え、準備することができた。

第1回の交流会は、多くの子が笑顔で話しかけたり、車いすをすすんで押したりと積極的に関わることができていた。交流会の感想でも、「笑顔で反応してくれてうれしかった」「思った以上に遊びが上手でびっくり」といった意見が多く出された。しかし、「上手に接することができなかった」「全然話せなかった」など困ったという意見もあった。もっと交流したいという気持ちがある反面、不安をもつ児童もいたのである。そこで、不安や困っていることを解決するために、高齢者疑似体験や介護士さんへの質問などをした。

解決方法の話し合いでは、認知症の方との接し方で困っている子が多かった。それに対し、「何度も聞かれたら、何度も言えばいい」「優しい言葉かけをすればいい」などのアドバイスが出され、すすんで関わっていきこうとする気持ちを高めることができた。そして、第2回交流会では、認知症が進み会話にならない方にも、何度も話しかける子どもたちの姿が見られた。



お年寄りの話を真剣に聞く子どもたち

④ 実践の成果と課題

お年寄りとは、子どもたちとの交流を心待ちにしていた。そうしたお年寄りと関わることで、子どもたちは人から必要とされる有用感を高めることができた。そして、「もっと喜んでほしい」「交流したい」という思いをもち、思いやりや親切にすることの大切さにも気づくことができた。

この実践では、身近な地域の中から課題を見つけ、多くの地域の方々とかかわりながらその課題を解決していくことができた。そして、課題を解決するだけでなく、人との関わり方についても考えを深めることができた。子どもたちの中には、授業以外の時間にも、グループホームに行き、お年寄りとの交流を続けている子もいる。

今後は、課題を解決するだけにとどまらず、自分たちがわかったこと、気づいたことを地域へ発信できるような実践を進めていきたいと考えている。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

）